

心不全を考える会 ~ニュースレター~

Review meeting for heart failure

大牟田市立病院 循環器内科部長 紫原美和子

新型コロナウイルス感染症に加え、7月上旬には豪雨による災害が発生しました。「心不全」の原因は多岐にわたることが知られており、種々の災害発生に伴って生じる身体的・精神的ストレスが「心不全」の原因となることがあります。私たち循環器医療に携わる医療従事者は、災害医療においても長期にわたり細やかな医療を提供することが重要と考えており、今こそ「ワンチーム」で当院循環器内科チームも地域に貢献したいと考えています。今後も何らかの形で「心不全」に関する様々な情報を発信していきたいと考えておりますので、ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

【管理栄養士】

患者さんによって食事内容の課題は様々です。退院に向けた在宅での減塩食や低栄養を予防するための食事療法について、患者さんの生活にあった食事の提案が出来るようサポートしています。

管理栄養士 若松美智子

【リハビリ】

主に心不全や術後の心臓リハビリテーションを行っています。患者様の体力や生活機能の向上を目的に個々に合わせた運動療法や生活指導・患者教育・カウンセリングを行っています。

P.T 武末賢介

【看護師】

患者さんの疾患や療養生活をアセスメントし、患者さんが慣れた場所で安心して療養生活を送れるよう、医師・MSW・リハビリなど多職種と連携をとりながら患者・家族の思いや意思を支える関わりを目指し支援しています。

病棟師長 天野華歩

【薬剤師】

入院前の薬や服薬状況を確認して、入院中により良い治療ができるよう薬の内容を検討しています。多職種と連携して、退院後の生活に応じて医院や薬局へ情報提供を工夫しています。

薬剤師 坂本彩香

【MSW】

入院前の生活状況（支援者の有無や住環境など）のアセスメントを行い、退院後の不安や課題を確認しながら、多職種と連携して療養先の検討や介護保険申請などの支援を行っています。

MSW 中島里枝



【循環器内科メディカルチーム紹介】

【循環器医師】

2020年4月より大牟田市立病院で勤務させて頂いております。大牟田地区では高齢化が進んでおり高齢者における心不全症例、心不全バンデミックを実感する日々を送っております。今後ともよろしくお願い致します。

医師 山本 茉世



~循環器内科~

【循環器医師】

大牟田市では75歳以上の高齢者が人口の20%近くを占めており、地域全体でのサポートを必要とされる患者様が多くいらっしゃいます。チームの一員として循環器診療を市民の皆様へ届けられるよう精進して参ります。

医師 大地 祐輔



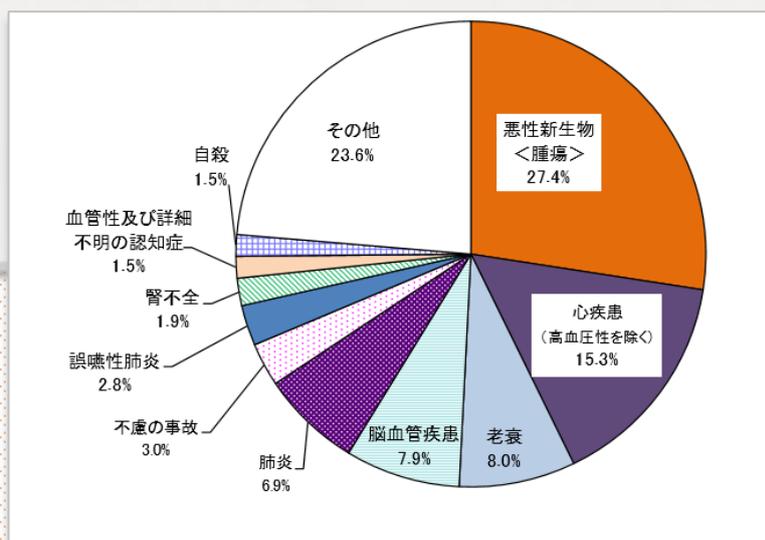
👉 心不全に関する院内研修会を開催しました（右写真）

2020年7月17日（金）「化学療法後に心機能低下を来した一例」をテーマに、山本茉世医師（当院循環器内科）の講師により院内研修会を開催しました。当日は、循環器内科診療にかかる専門職（看護師、薬剤師、検査技師、リハビリスタッフ、栄養士、MSWなど）約20名の参加があり、心不全の病期や検査、治療、リハビリのあり方など、症例を通してわかりやすく解説され、病状理解や患者理解を深めることができました。

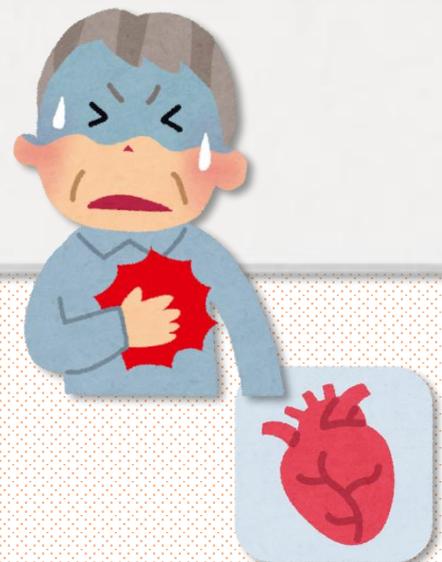


腫瘍循環器学（Onco-Cardiology）について

わが国における死因のトップは「がん」であり、「がん」の罹患率は年々増加しています。一方で、死因の第2位である「心疾患」も生活習慣の欧米化と高齢化によって増加しており、「がん」と「循環器疾患」を合併する患者さんが増加しています。また、「がん」は治療の進歩により、がん患者さんの予後は格段に改善しています。しかし、抗がん剤や放射線治療は、心機能障害や心不全、深部静脈血栓症、狭心症・心筋梗塞、不整脈、高血圧などの心血管合併症を引き起こし、生命予後やQOLを左右することも課題になっています。特に、高齢者や心血管疾患を有する患者さんではハイリスクとされています。がん患者さんに十分ながん治療を受けていただくことができるようにながん専門医と循環器専門医が連携して診療を行うことも多くなりました。これまで、循環器は「がん」と最もかけ離れた分野と考えられていましたが、「腫瘍循環器学（Onco-Cardiology）」が提唱され、そのニーズが高まっています。当院は「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、当科も院内はもちろんですが、地域でがん診療に携わられている先生方およびスタッフの方々とも連携して、がん患者さんの生命予後とQOL向上に取り組んでいこうと思います。「心不全を考える会」におきましても当科で経験しました「がん患者さんの心不全」を供覧させていただき、皆さんと議論できる日を楽しみにしています。



出典：厚生労働省「平成30年（2018）人口動態統計月報年計（概数）の概況



【事務局】